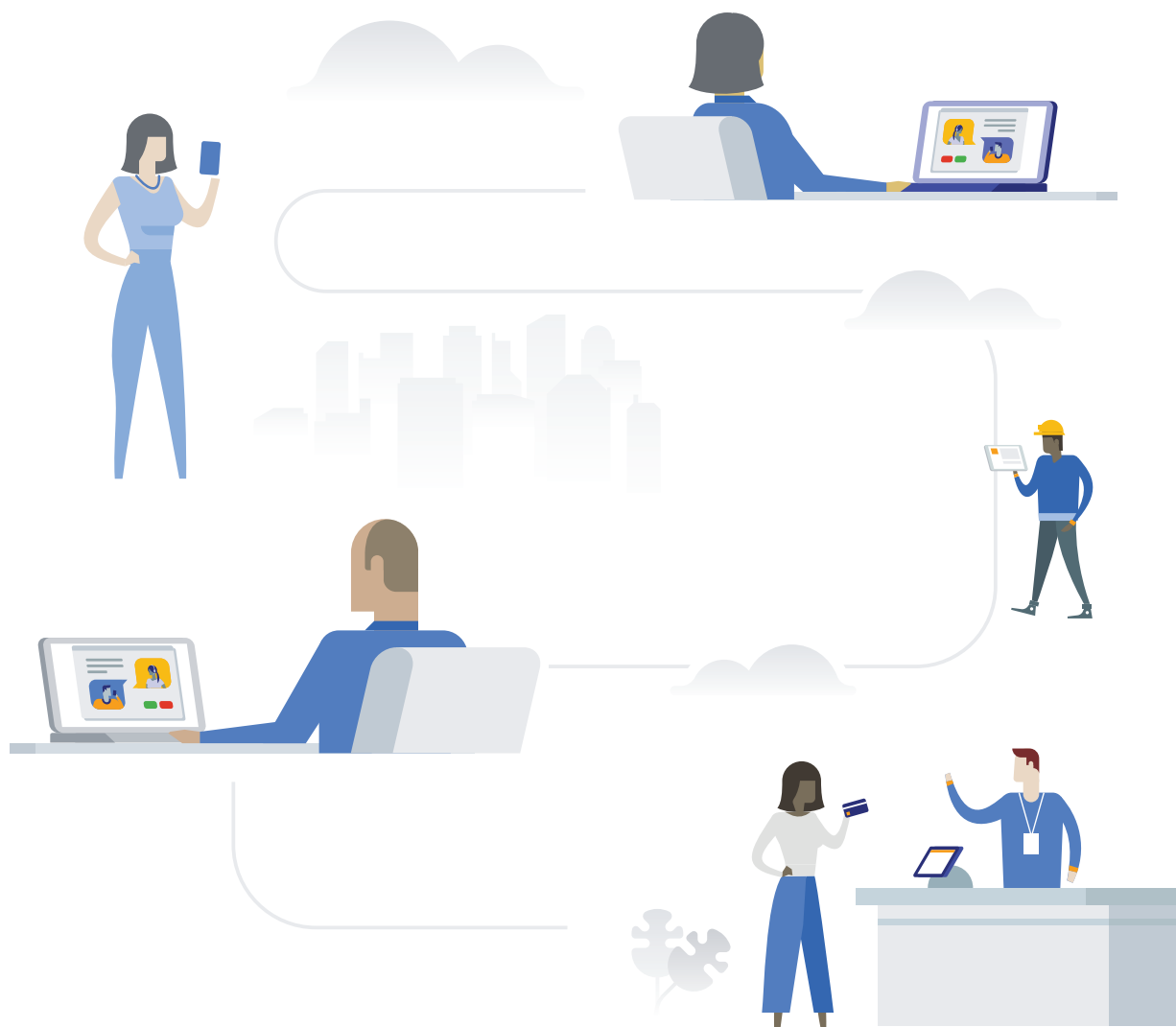


企業が目指すべきクラウド戦略

クラウドワーカーと 企業向けテクノロジー



従来の環境を見直すとき

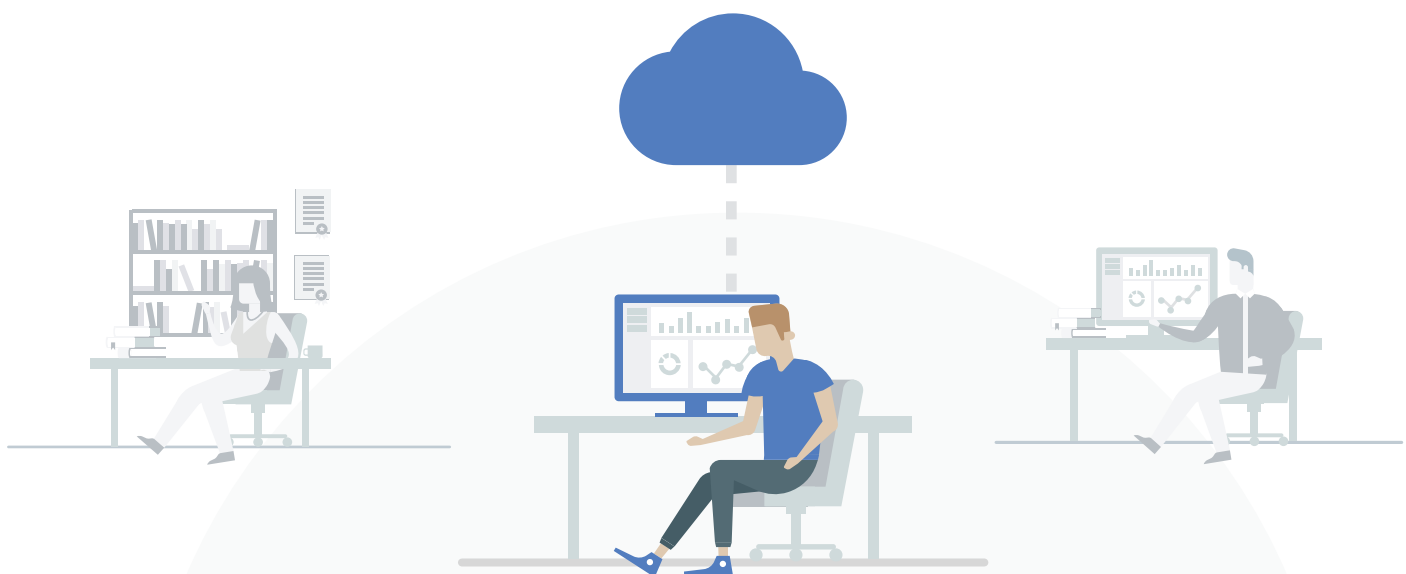
テクノロジーの進化は私たちの生活を大きく変化させました。その結果、従来型の職場にも変化が起り始めています。

ブラウザやアプリケーション、スマート端末が広く普及し、日々の暮らしの中でクラウドコンピューティングが当たり前のように使われています。複数の端末にオンデマンドコンテンツをストリーミングする、テイクアウトの料理を注文する、タクシーを手配する、友人や家族とコミュニケーションを取るなど、テクノロジーはいろいろな場面で活用されています。こうした流れの中で、新しい働き方を実践するクラウドワーカーの存在が注目されています。人々はシームレスなオンラインの機能に慣れ、職場でも同じ体験を望んでいます。従来のツールに煩わされることなく、情報やサービスにアクセスしたいと考えています。

すでに多くの従業員がクラウドを利用しており、企業はこうした要望に急いで対応する必要に迫られています。実際、現代の企業では、**4人に1人**がクラウドベースのアプリケーションやSaaSツールを利用して端末や場所に縛られず業務を遂行しており、平均すると**3時間以上**オンラインで仕事をしています¹。

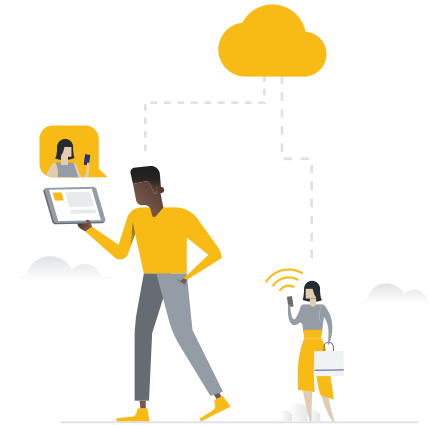
企業にとって、クラウドワーカーに対し適切なテクノロジーとツールを提供する絶好の機会が到来しています。クラウドワーカーが、インサイトを探り、中断されずにリアルタイムで重要な意思決定を下し、競争上の優位性を高める活動に集中できる環境を作りましょう。

Chrome Enterpriseは企業を考慮して開発されました。ここでは、企業がクラウドテクノロジーの実力をいかに活用できるかを説明します。



1 Rethink Technology In The Age Of The Cloud Worker, 2018年5月。
Googleの委託により Forrester Consulting が実施した調査

テクノロジーが 引き起こした 企業文化の変革



企業は常に変化しています。事業の形態や規模にかかわらず、あらゆる組織で企業文化と技術の変革が進んでいます。その結果、職場では以下のような傾向が表れてきました。

83%

企業はクラウドへ移行中

企業のワークロードの **83%** が、2020 年までにクラウドに移行すると見られています¹。

4
時間以上

ブラウザが新しい デスクトップへ

職場においてブラウザを使って業務を行う時間は **4.6 時間** にも及んでいます。こうした従業員の 3 分の 2 が、Internet Explorer や Firefox ではなく、Chrome ブラウザを利用しています²。

9,600
万人

仕事「場所」から 「スペース」へ

モバイルワーカーの人数は着実に増えています。2015 年の **9,600 万人** から、2020 年には 1 億 500 万人に増加すると予想されています³。

1 LogicMonitor, Cloud Vision 2020: The Future of the Cloud Study

2 Rethink Technology In The Age Of The Cloud Worker, 2018 年 5 月。
Google の委託により Forrester Consulting が実施した調査

3 IDC, U.S. Mobile Worker Forecast, 2015~2020 年

ナレッジに 頼る時代は 終わります



現代ほど、企業が大量のデータを集めたり、管理したりした時代はありません

検索エンジン技術の普及により、技術スキルに関係なくあらゆるユーザーが、キーワード検索から取引履歴までさまざまなデータにアクセスして、十分な情報をもとに意思決定を行っています。意思決定の権限を分散させ、迅速な対応を目指す企業が増えています。こうした企業では、従業員が意味のあるデータをすぐに入手できる環境を作り、権限委譲を促進しています。こうした状況は何を意味しているのでしょうか。データの収集はもはや難しいことではありません。問題は、特に影響の大きい 20% のインサイトをデータソース全体から見つけ出し、既存のビジネスモデルに統合して、価値を生み出せるかどうかです。



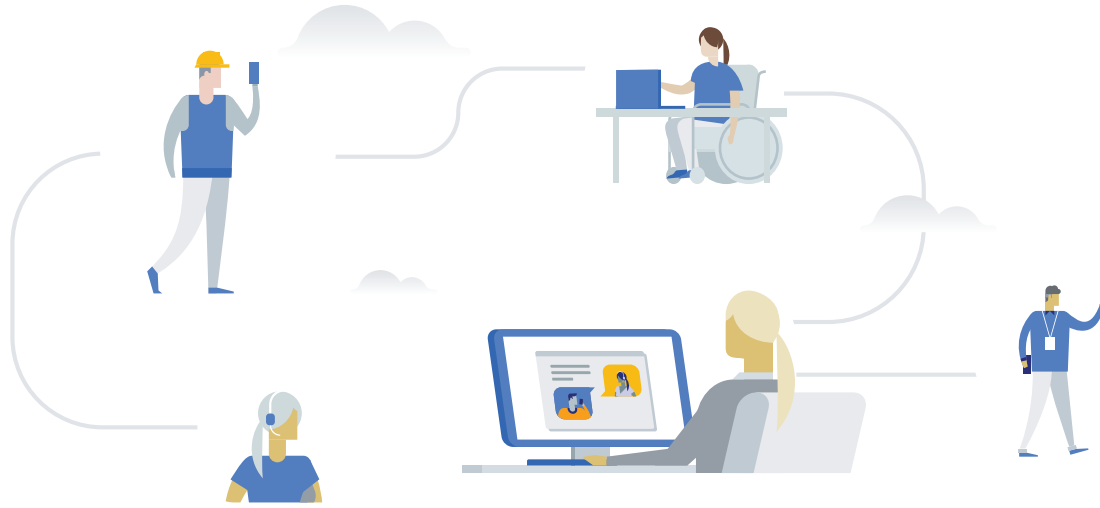
現代の企業と職場にとってどのような意味があるか

現代のビジネス環境では、処理能力、価値あるインサイト、スピードがなにより重視されます。



企業に重要なのは全体として発揮する力

企業が競争力を維持するためにデータの処理や分析に求めるスピードは、従来のナレッジワーカーの能力をはるかに超えています。10 人のうち 9 人以上 (94%) がコラボレーションの重要性を理解し、83% はすでにクラウドテクノロジーを使用して共同作業しています。企業は、リアルタイムでビジネスの意思決定ができる、こうした新しいタイプの従業員を支援する環境づくりを早急に進めなくてはなりません¹。



従業員の進化

個々のユーザーに合わせたクラウド環境

クラウド ネイティブ アプリケーションのコンピューティング能力や保存容量は、私たちのプライベートな時間の過ごし方を変えました。たとえば、今週どこかに遅刻しそうになったときに Uber や Lyft を利用したり、クライアントのオフィスやレストランに向かうときに Google マップを利用したりしませんでしたか。バスに乗っているときに Spotify を聴いたり、家族と一緒に Netflix を観たりした時間もあつたかもしれません。

私たちは常にクラウドを利用して暮らしているのが現実です

そのため、働く人々が同じ変化を職場に期待するのは当然といえるでしょう。自宅やと答えています¹。職場以外で使うクラウドアプリケーションのように、操作性に優れ、魅力的でシームレスに使える業務用ツールが求められています。

効率性、接続性、スピード、信頼性、セキュリティ、中断のないアクセス

ここに挙げたものは、業務で能力を最大限発揮するため、仕事で使うツールやアプリケーションに従業員が期待する品質です。

94%

Forrester が行った最新の調査によると、94% の従業員が、ブラウザベースのアプリケーションはデスクトップアプリケーションと同等もしくはより使いやすいと答えています¹。

¹ Rethink Technology In The Age Of The Cloud Worker, 2018 年 5 月。Google の委託により Forrester Consulting が実施した調査

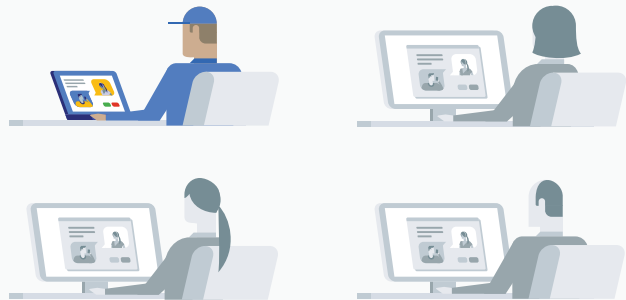
クラウドワーカーへの移行

新しい働き方を実践する従業員は、物理端末の制約に縛られることなく、クラウドベースのアプリケーションや SaaS ツールを活用して外出先で仕事をしたり、共同作業を行ったりしています。米国では 2020 年までに、モバイルワーカーが労働人口の 72% を占めるようになると予想されています¹。

こうしたモバイルワーカーは各自の習慣や仕事のパターンに従い、標準的なオフィス環境には縛られません。1日のほとんどの仕事をウェブブラウザを介して行ったり、グローバルチームではメンバー同士が違う場所で作業したりします。また、通勤途中に仕事をするため、複数の端末でデータを同期させている場合もあります²。80%の人は、さまざまなソースのデータに即座にアクセスできる環境のおかげで成果を挙げられていることを認めています。

こうした人たちはクラウドワーカーと呼ばれ、これまでの職場の在り方に変革を起こしています。従来の働き方に縛られることなく、これまで以上に大きな企業価値をもたらしているのです。

これは未来の話ではありません。
4人に1人がすでにクラウドワーカーです。



クラウドワーカーは、すでにさまざまな業種や部署に広がっています。業務別で見た SaaS 利用が好ましいと考えるアーリーアダプターの割合は以下のとおりです³。



1 IDC の調査、U.S. Mobile Worker Forecast, 2015~2020 年

2 Rethink Technology In The Age Of The Cloud Worker, 2018 年 5 月。
Google の委託により Forrester Consulting が実施した調査

3 Forrester, Chrome Cloud Worker Thought Leadership Study, 2018 年

従来の環境がもたらす課題

以前のオンプレミスインフラストラクチャは、新しい働き方に対応できなかったり、安全性を確保できなかったりする可能性があります。



端末に最新のセキュリティパッチが適用されていない



アップデートの先延ばし、ポップアップの表示、データ処理の遅さが原因で作業フローが中断



データサイロにより、しかるべき人にしかるべきタイミングに必要なデータが提供されない



端末間で同期できないため、人的エラーの可能性が発生する



IT メンテナンスコストが高つく



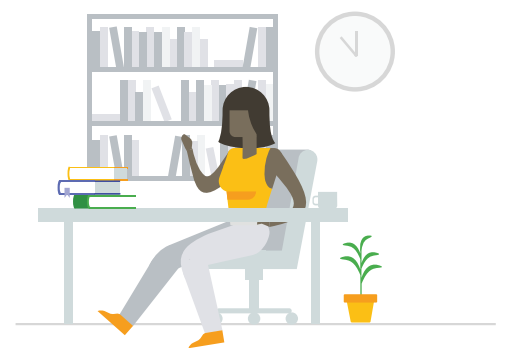
端末のストレージ要件が厳しい

IT に関する注目点

現代の労働文化では、俊敏性や効率性、生産性が重視されているにもかかわらず、企業向けツールは未だにそのニーズを満たすことができていません。

2017 年の調査「State of Automation」¹ では、従業員の **40% 以上** が、職場で指定されたソフトウェアはスピードが遅く、効率が下がるため使用していないと回答しました。この調査では、**10 人中 4 人** が、手動で繰り返し行う作業に 1 週間の 4 分の 1 を費やしていることも明らかになっています。

こうした状況は、多くの無駄な時間を生むだけでなく、全社規模でビジネスチャンスや収益を逃すことにつながる可能性があります。そして極めて重大なのは、従業員を失うリスクがあることです。



知っておくべきこと

1. 従業員が変化している一方で、古いテクノロジーが現在起きている進化を妨げています。
2. 従業員が能力を発揮できる環境を整え、テクノロジーの障壁を取り除いて生産性を向上させる必要があります。

チームにより多くの価値をもたらすには



クラウドワーカーを特定し、支援する



Gartner の調査では
「クラウド優先の戦略は、速いペースで変わる世界に後れずについていくための基盤となる」と述べられています。こうした戦略は、変化の速い従業員に合わせて発展するための基盤でもあります¹。

IT マネージャーはテクノロジーの面において、通常どおりビジネスをサポートするだけでなく、革新をもたらす責任もあります。変化に対する柔軟な対応や豊富なインサイトを基に決定を下すことを可能にし、さまざまな制約に縛られない環境を実現するツールを従業員に提供して、企業が優れた業績を残せるようにする必要があります。従業員の 80% は、さまざまなソースから情報やデータを即座に入手する必要があり、1 日のうち少なくとも 50% を同僚やお客様、パートナーとの共同作業に費やしていると回答しています²。

1 Gartner, Press Release, 2016 年 7 月

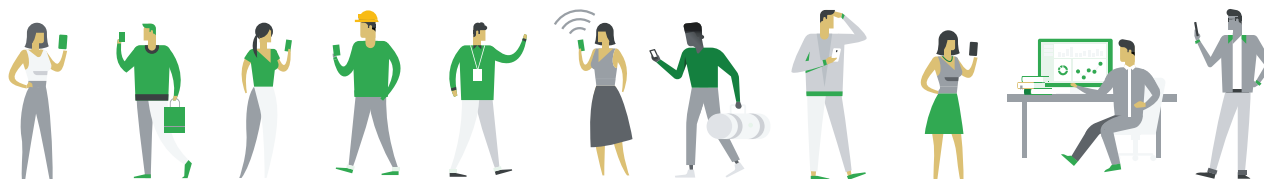
2 Forrester, Chrome Cloud Worker Thought Leadership Study, 2018 年

こうした状況のもと、将来の進化に備える最善の対策は、クラウドベースのツールやサービスから大きな恩恵を被る従業員を見極めること、つまり、クラウドワーカーのプロフィールに合致する従業員を探すことです。場所や時間、端末を問わず、必要な情報にアクセスできる環境を用意し、ビジネス上の成果を最大限に引き出しましょう。



こうした動きはすでに始まっています。**現在、IT部門の70%が、端末に対するニーズに基づいて従業員のグループ化を進めています。**

クラウドでは、コンピュータ間で形成されるデータサイロは生まれません。組織内のデータは互いに連係し、AIを導入することが可能になります。長期的に見て、適切なツールとインサイトを従業員にもたらし、収益性を高めようとする場合は、何よりもまず、それにふさわしいインフラストラクチャを構築する必要があります。



Chrome Enterprise の導入

クラウドに接続されたクラウドネイティブソリューションとして Chrome Enterprise を導入する企業は、さまざまなプロダクトやサービスを利用してビジネスに関するインテリジェントな分析情報を取得でき、それを基に世界各地のチームと協力しながらリアルタイムで行動を起こすことができます。すべての作業はスケーラブルかつセキュアな環境で行われます。

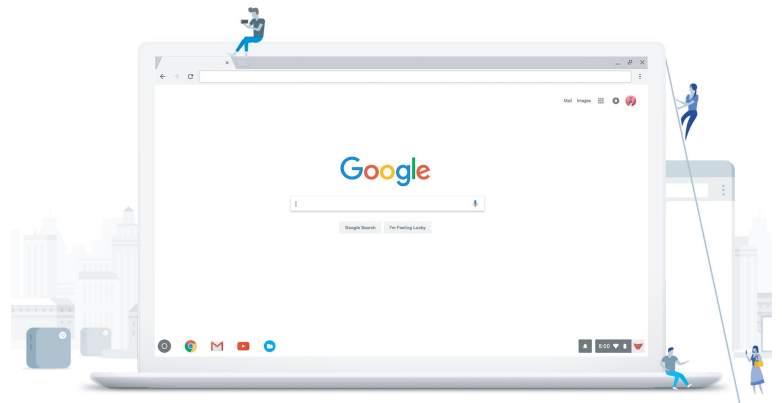
Chrome Enterprise: クラウドワーカーを 重視した設計

Chrome Enterprise は、クラウドワーカーとその組織の働き方に対応したブラウザ、OS、パワフルな端末を提供します。

Chrome Enterprise は、クラウド環境を前提に開発されています。クラウドベースのツールやサービスの機能を安全に利用でき、端末や場所を限定されることはありません。

現代の職場では、1つの組織だけで1日平均56回の業務中断が発生しています。ダウンタイムから復旧し、再び業務に集中できるようになるまで、1日2時間も無駄にしています¹。しかし、Chrome Enterprise なら、こうした問題に悩まされることはありません。

従来のノートパソコンやデスクトップパソコンに縛られないクラウドワーカーには、Chrome OS や Chrome 端末を利用することで、**仕事の効率化**やダウンタイムの減少といったメリットがもたらされます。3~6週間おきにバックグラウンドで自動的に更新が行われ、起動やローディングもわずか6秒で完了。相互に接続された端末同士でシームレスに作業ができます。こうした環境では、すぐに仕事に



取りかかることができ、**業務を遮られることなく集中し続けることが可能です。**

さまざまなフォームファクタの**高品質なハードウェア**が揃っているため、現場やオフィスなどユーザーのニーズに合わせて端末をクラウド、タッチペンが装備されたコンバーチブルタイプの2-in-1、着脱可能なタイプなどから選べます。また、ユーザーのワークフローに**機械学習機能**が組み込まれているため、端末がユーザーの働き方に適応するに従い生産性も向上します。ユーザーが使う可能性があるアプリケーションを随時提案するアダプティブランチャーはその一例です。ウェブ、アプリケーション、連絡先などさまざまなデータを検索対象にできるユニバーサル検索も利用できます。ユニバーサル検索では、検索クエリが自動提案され、ユーザーに合わせて検索結果の優先付けを行うため、効率的に使用できます。

Chrome 端末は、Samsung、Lenovo、Acer、HP、Asus、Dell など主要ブランドが製造しています。

※ 日本市場では Acer、Asus、Dell、Lenovo のみ

企業のために 作られたテクノロジー

セキュリティ重視の設計

2017年、Fortune 500 企業の 69% がフィッシング攻撃を受けました¹。企業をエンドツーエンドで保護することが、ますます重要になっています。Chrome OS はすべてのエンドポイントでお客様のデータとビジネスデータを安全に保護し、競合他社と比べて 6% 高いフィッシング検知率を達成しています。

従業員の端末へのファームウェア統合、一元管理、AI による脅威検出など多重保護を適用し、大きな損失をもたらす違反や人的ミスによる影響を低減します。また、従業員が仕事をしている間、バックグラウンドで自動更新やバグ修正が行われるため、業務の中断を最小限に抑え、稼働時間を最大限に確保できます。

きめ細かな管理

Chrome Enterprise のライセンスでは、ユーザーがアクセスできるウェブサイトやアプリケーション、拡張機能の種類を選択するためのさまざまな条件にポリシーを適用できます。

Chrome OS では、200 以上のユーザーポリシーやデバイスポリシーを適用し、データの機密性やコンプライアンスを確保しながら、一元管理を実現します。また、ユーザーの権限を調整して不正なアクセスを防止することで、端末のプロビジョニングやモニタリングを効率化します。こうしたシステムと併せて EMM や IDP の各オプションを利用すると、管理が徹底した環境の中で柔軟に規模を拡張できます。



スマートな投資

Chrome Enterprise への投資は、年ごとに**コスト効率が上がっていきます**。Chromebook を職場に導入した場合、他の端末と比較すると、大幅なコスト削減が見られるだけでなく、以下の 3 つの領域においても経済的メリットがもたらされることが、ESG の経済価値検証プロセスによって明らかになりました。

1. ハードウェアやソフトウェアなどの取得コストの削減
2. 導入、管理、サポート、メンテナンス、電力などの運用コストの削減
3. データリスクの軽減、ユーザーの生産性向上、ダウンタイムの短縮など、ビジネスの稼働時間の改善

端末 1 台あたりの
年間削減額

約 **67,500円**
(482ドル)²

Chrome Enterprise
ライセンスの導入

端末 1 台あたり

年間 **7,000円**
永年 **21,000円**

1 Work Smart and Stay Safe with Google Chrome Enterprise, CSO Conference, 2018 年 2 月

2 ESG, Quantifying the Value of Chromebooks with Chrome Enterprise, 2018 年

今後の方向性

職場は常に進化しています。情報は無限に増えていきますが、その有益性が変わることはありません。私たちの仕事は世界規模で広がり、共同作業によって支えられ、絶えず変化し続けます。新しいテクノロジーを利用すれば、常に安定した環境で業務を遂行できます。あらゆる規模の企業がこうした重要な転換期を迎えており、クラウドテクノロジーがもたらす優れたメリットを理解し始めています。

日々のオンライントランザクションという点で見れば、ショッピングや料理の注文、移動手段の手配、家族や友人との交流などを通して、ユーザーもこれまで以上にスキルや知識が豊富になっています。私たちは日々の暮らしの中でクラウドを利用しており、仕事で使うツールにも、同じようにシームレスでデータ主導型の体験を期待しています。

次世代の従業員の進歩を妨げているのはレガシーシステムであり、短期間での移行や、コラボレーションツールによるパフォーマンス強化を阻む要因になっています。事実、従業員はテクノロジーの更新や再起動で作業の中断を余儀なくされ、年間で5日間を無駄にしていることが明らかになっています¹。

競争力を維持したいと考える企業は、物理的なオフィススペースから仮想環境へ情報やプロセス、インタラクションを移行しています。こうした企業は柔軟な就業形態を実現させ、働く場所や時間、手段に関する障壁を取り除くことに成功しています。

さまざまな場所、時間、ニーズに合わせたコンピューティングアクセスを可能にし、それぞれの状況について分析を行うことで、端末ではなく従業員に合わせて体験を改善できます。

次のステップ: 何をすべきか

まずは変化を受け入れましょう。そして、Chrome Enterprise と連携して、貴社のクラウドワーカーの基準を確立してください。変化に直面する従業員を十分サポートできる体制を整えることも必要です。

1. 従業員が使用するテクノロジーを含め、あらゆる点において共同作業、インサイト、順応性を重視する企業文化を確立します。
2. 変革の推進者として行動しましょう。組織の中で俊敏性とスキル強化を促します。
3. 従業員をグループ化し、どのグループが共同作業やリモート勤務をすでに実践しているか、クラウドネイティブテクノロジーを有効活用しているか特定します。
4. 部門の枠を越えた共同作業を妨げる部門間の垣根や地理的な障壁を取り払います。
5. 従業員に選択権を与え、誰でも意思決定できるようにします。

どこからでもアクセスでき、 ビジネスの成長を支援する Google Cloud Chrome Enterprise で今すぐ クラウドへ移行しましょう



詳細は
こちらをご覧ください

<https://cloud.google.com/-/chrome-enterprise/cloudworker/>



お問い合わせは
こちらをご覧ください

<https://cloud.google.com/contact/>



